

イバラノツルヒコの 華麗なる生活

～よりぬき
麻魅さん編～



はじめまして、イバラノツルヒコです



縁あってここを読んでくださっているお嬢様方、奥様方、こんばんは。

突然ブログなるものをはじめることになって緊張してしまうけれど、こんな僕でよかったらしばらく相手をしていってね。

僕は学生で、東京のとある街に住んでいます。

生まれつき色が白くて全体の色素も薄いようで、よく欧米人に間違われるけれど、名前からもわかるように生粋の日本人です。あと女の子にも間違われるけど、れっきとした成人男子です。でも、小さい頃仏蘭西で暮らしていたせいか少し趣味や考え方がいまどきの人たちと違うかもしれない。だってほら、今街中でこういうシャツなんか着ているのは僕くらいだもの。

そんな訳で僕のブログもちょっと風変わりになるかもしれないけれど、とりあえずしばらくは僕のことや僕の友人たちについて紹介していくから宜しくね。それでは、今日は短いけどこのあたりでアデュー。

天気の良い日は買い物に



昨日は少し緊張して文章が硬かったみたいだ。慣れるまで読みにくいかもしれないけどゆるしてね。

ところで今日は素晴らしい天気だったので僕は買い物に出かけたんだ。お気に入りのマーメイド入りクロワッサンがきれていたのに、このところ忙しくてずっと買いに行けなかったから。友達の秀虎は（彼のことは今度話すね）僕の好物がこれだと知った時に女の子みたいだと大笑いしたけれど、実際食べさせてみたらおいしいって言って半分も持って帰ってしまったんだから呆れてしまう。まあ、僕の選んだとおきの味だから当然だけどね。

パン屋のおじさんとはもうすっかり顔なじみで、僕がいくといつもニコニコしながら「ツルちゃん、ちょうど焼きたてだよ」なんて声をかけてくれるけれど、本当は僕はその呼び名はちょっとカンベンって思っているんだ。フランクなのは悪くないけど、なんだかイメージが可愛すぎちゃうって思うよ。僕は「ツルヒコさん」って呼ばれるのが一番しっくりくるので、皆もそう呼んでくれると嬉しいな。



僕の部屋を訪ねてくれる人は皆びっくりするんだけど、うちのドアにはこんな（図参照）ものがついている。もちろん作りつけのものではなくて、これも僕のこだわりのひとつなんだけど。

この部屋に引っ越したとき、あまりに殺風景なドアに愕然とした僕は、その日のうちにこのドアノッカーを買ってきたというわけ。だって、人が尋ねてきたときにドアノッカーもない家なんてどうかと思うよね。呼び出しベルという手もあるけれど、なんだか無機質な感じがして僕は好かない。

それはともかくこのノッカーはなかなか面構えのいいやつで、僕は「パンサー」って名前をつけて仲良くやっている。この「パンサー」とバスルームにいる「ジャガー」とはそれとなく張り合っている感じがするんだけど、お互い必要とされるポジションが違うから特にいさかいもなくすんでいるみたいだ。

こんなことを言い出すとまるで僕が変人みたいだけど、本当はペットを飼いたいのをガマンしているから（ここはペット禁止なんだよ.....信じられない）せめて気持ちだけは楽しくやりたいということなんだ。びっくりして嫌いにならないでね。頼むよ。

それにしてもよく皆あんなに殺風景な部屋に住んでいられるなあと思うんだ。僕は自分の部屋を快適にしようと

頑張っているんだけど、まだまだ理想には程遠いな。その奮闘については、またいずれあらためて紹介するね。
では今夜はこのへんでアデュー。

雹が降る



ボンソワール。昨日はすごい天気だったけど、皆のところはどうだった？

なんだか肌寒かったから、僕はうちで大人しくしていたのだけど、というか正直に言うと転寝してたわけだけど、突然の雷とすごい雨音にびっくりして目が覚めた。

本当にすごい音だった。雨というよりは、何か石でも投げつけられているような、ただ事じゃない感じだったから、何事かと思って外を見たら、降っているのは雨じゃなくて雹だった。

雹ってこんなに大きいものだったけ？親指の先くらいの氷の塊が、どんどん窓に叩きつけられてくる。

生まれてこの方、こんな雹を見たことはない。そもそも雹自体にあまりお目にかかったことがないし。

なんだか窓ガラスまで割れてしまうんじゃないかと少し不安になっちゃったよ。

しばらくしたら、それまでのことが嘘だったようにすっかり雹はやんでしまった。ベランダや、向かいの家の屋根には氷砂糖みたいな雹が積もっていた。

路上観察部の僕としては（ああ、実は路上観察部に在籍しているんだけど）なんだか外の様子がみたくなくて、カメラを持って部屋を出た。

皆同じことを考えたみたいで、あちこちから近所の人が顔を出してるのがおかしかった。子供たちが、大きな氷の塊を見つけては喜んで走り回っている。はじめて見たけど、雹ってわりときれいな球体のものが多いんだね。

僕の部屋は2階だし、ベランダもパンサーも無事だったけど、隣の家ガレージの屋根には見事に蜂の巣状の穴が空いていた。

やっぱり自然の力ってすごいよね。一変した景色を前に、僕はずいぶん長いこと放心していた。



この前の日記で書いた路上観察部のことだけど、まあ「散歩部」なんて揶揄されるくらいで、かなりのんびりした活動をしている。要は歩いていて（もちろん走っていたっていいわけだけどね）見つけたちょっと面白いものやきれいなもの、不思議なものなんかを写真やスケッチにおさめて楽しもうという集まりだ。

年に一度学園祭にあわせて展示をするのと作品集をつくるだけだから、普段は部室をお茶のみ場にしてだべったりするのが活動といえば活動だ。そんな地味なところなので、新入生にとってたいした魅力があるとも思えないけれど、なんだか人を誘うのがうまいやつもいるもので、今年もきっちり数人の1年生が名簿に名前を加えることになった。

それで、最初くらいは先輩らしいこともしなくちゃいけないということで、一応クラブハウス内の案内をしていたときのこと。

学生会室は何かと利用することになるので、場所を教えるだけでなくあいさつがてら顔を出したのだけど、たまたまそこにいたのが摩魅さん一人だった。

この摩魅さんというのは説明の難しい人で、多分学生会のメンバーでもあるんだけど大概の文化系クラブでその姿を見かけるといって、なんというかクラブハウスに住んじゃっているような人だ。去年4年生だったはずだから、今年もここににいるということは...院に進学したのでなければ卒業しなかったんだな、と思うんだけど、この人の場合は卒業できなかったというよりはしなかったんだろうと勝手に思ってしまう。さらさらした黒髪を長くのばしていて、割といつも黒っぽい服を着ていて、そして必ずどこでも煙草をふかしている。僕は煙草はどうも受け付けないんだけど、摩魅さんが煙草をあまり美味しそうに吸うので、彼女を見るたびにうっかり「そんなに美味しいものなのかなあ」と手を出したくなっちゃうんだ。

演劇の脚本を書いたりもするようで、僕は観た事がないけれどかなり不思議な芝居をつくるとか、しかもそれがほとんど彼女の実体験らしいとか、駅で見知らぬ男性に突然プロポーズされてしつこく追い回されたとか、なんだかよくわからないエピソードをいくつも持っている人だ。確かに印象的な人なんだけど、彼女に対する評価は「とても好き」か「大嫌い」にはっきりわかれることが多くて、真理子女史なんかは「どうも気に食わない」って言っている。

摩魅さんは入ってきた僕らを「なに？」って感じに一瞥すると、後は興味なし、って感じで同じように煙草を吸い続けていた。学生会室を出たあとで、連れていた新入生の子がやたらと摩魅さんのことを聞きたがるので、僕はさしさわりのない程度に知っていることを教えたわけだけど。やっぱりなんていうか、彼女は人の興味をひくタイプなんだなあ。そういうのって、一体どこで決まるんだろうね？



花の週末といえど、試験中の学生にそう面白いことはないから、今日はこの間の試験のことでも書くね。といっても、内容云々のことじゃないんだけど。

その試験で、たまたま僕の前の席にいたのが3年生の佐藤君だった。彼は多分、学内ではちょっとした有名人だ。というのも、彼の髪の毛が男性としては、あるいは女性にしてもかなり長いせいだ。今日び長髪くらいでは誰も驚かないところだけれど、彼のはちょっと違う。腰くらいまでのまっすぐな黒髪をいつも長い三つ編みにして後ろにたらしているんだ。

普段は遠目で見るとその髪が、僕の目の前にあるわけで、試験中だというのに思わずしげしげと眺めてしまった。

こんな髪を手入れするのは大変だろうなあ、とか、この三つ編みは自分で編むんだろうなあ、とか、どうでもいいことをつらつら考える。僕の髪はたいそうなクセ毛だから、こんなにのばしたら大変なことになるだろうななんてことまで。

もちろん試験中ずっとそんなことをしていたわけじゃないよ。

でも、流行の格好ならそれがどんなに奇妙なとりあわせでもなんとも思わないのに、そうでなくて珍しい格好のときは、なんでその人がそういうスタイルを通すのかとか、そんなことまで気になってしまうのは不思議なことだよね。



昨日は空き時間に課題を少しやっと思っただけ、図書館がなんだか混んでいた。それで、クラブハウスのほうにいったら部室（路上観察部にも一応部室らしきものがあるんだ）に誰もいなかったので、ちょうどいいと思ってそこで少し本を読み始めた。部室にはお茶もあるし、一人だと個室みたいでいい気分だ。

しばらくすると、「あ、いたいた」といいながら誰かがノックもそこそこにドアを開ける気配がして、振り向いたらなぜか部員ではなくて摩魅さんだった。何の用だろうと不思議に思う間もなく摩魅さんは近づいてきて「あのねえ、ちょっとこの部屋に電話がかかってくるかもしれないんだけど、私のこときかれてもわからないって言うておいてね」

と言う。もちろん僕は全然訳がわからないから、思いつき「は？」って顔をしていたと思う。

「悪いんだけどさ、ヘンな男にしつこく連絡先きかれたから学生会室の番号でもと思ったんだけど、それじゃ迷惑だからと思って番号の最後を変えて言ったらさあ、たまたまここの電話だったってわけなのよ。」

「たまたま...って、あの。ヘンな男ってなんなんですか？」

面食らった僕はそれをきくのがやっとだ。

「だからヘンな男だってば。ヤクザとかじゃないと思うから、デタラメだとわかったらあきらめると言うからさ、私の名前とかは知らん顔して、間違い電話ってことにしてくれればいいから。ごめんね！」

いやごめんねっていわれても...。大体、迷惑がかかるとかそういう配慮ができるなら、最初っから全然でたらめの番号とかいっておけばいいと思うのに、律儀なんだかいい加減なんだかわからない人だ。と、今ならそういたいけど、僕はそのときはなんだかわけがわからなくて

「そんな困りますよ、この部屋にいるの僕だけじゃないし、それに」

「だからみんなに言っというて。ごめんって。ほんとごめんねー！」

「ちょ...摩魅さん！」

再び僕は部室に一人になって、なんだかわからないまま状況を整理してみると、たぶんまた摩魅さんがしつこいナンパかなにかにあって、その場しのぎでたまたま言った番号がうちの部室の番号だったと。ということは、その相手がよほどしつこければ本当に電話がかかってくるかもしれないってことで、でたらめだと信じてくれればいいけれど、半端にでたらめじゃないから大変始末の悪い結果になっている、ということだと思う。

これってすごく困るじゃないか！うっかり他の部員が出て、相手を確認せずに学校名とか部室の場所とか教えちゃうってこともありうるし。だいいちこの話を僕が他の部員にしなきゃいけないっていうのがどうにも困る。ものすごい貧乏くじをひかされた気分だ。こういう話って、絶対に「きいたもの負け」ってところがあるよね

。

それでこの話は僕にとってはあまり嬉しくない方向に続くんだけど、...なんだか疲れちゃったので今日はこの
へんでアデュー。



クラブハウスのラウンジで一息いれていたら、向こうから志郎さんが佐藤君といっしょにやって来た。

あ、最近あまり話題にしていなかったのですが、この二人について説明しておくのが親切ってものだよな。志郎さんは図書館のバイト仲間で、夏休みには彼の代理として僕に家庭教師の口を紹介してくれた4年生。で、佐藤君というのは僕は知り合いじゃないけど、その独特の髪型でちょっと有名な人だ。同じ4年生でいながらどうして一方が「さん」付けで一方が「君」付けなのかというと、よくわからないけれど皆がそういう風に呼んでいるからで、別に他意はないんだよ。

この二人が友達だというのは知らなかったな、なんて思いながら、なんとなく二人を眺めていると、二人はラウンジのテーブルに荷物をおいて、志郎さんが「何か飲む？」って感じのことを言って、販売機に飲み物を買いにいった。

さて僕がびっくりしたのはこの後で、両手に飲み物を持って戻ってきた志郎さんにむかって、佐藤君がいきなり大声で何か言い始めたんだけど、それが見事な、っていうのもヘンだけど見事な関西言葉だったんだ。どうやら飲み物のセレクトが納得いかないというか、多分ここの販売機だとSサイズとMサイズはなぜか同じ値段なのにわざわざSサイズを買ってきたことをつっこまれているらしかった。

いや、なんていうか、僕は今まで勝手に佐藤君って寡黙な人だと思い込んでいたんだよね。どうしてってきかれると困っちゃうけど、目の前のビジュアルと耳に入ってくる言葉がどうしても頭の中で一致してくれなくて、なんだか一人でそのギャップに悩まされてしまったんだ。



なんだか今日は疲れちゃったけどお嬢様方は皆元気かな。

前に摩魅さんの話を書いて、中途半端に終わっちゃったんだけど、実はまだ続いている。あの後、僕はさんざん路観（路上観察部の略称だよ）の連中に文句をいわれちゃった上に、部室にいる間は電話には絶対僕ができるようにと決められてしまった。あのとき「聞いたもの負け」って書いたけど、まさにそんな感じ。

しかも、困ったことに電話は本当にかかってきた。それも、頻繁に。

摩魅さんは「ヤクザとかじゃないと思う」って言ってたけど、僕が電話に出て話をした限りでは、ヤクザどころかなんだかもものすごく真面目そうなサラリーマンて感じがする。さらに困ったことに、相手は真剣に摩魅さんに会いたがっていて、どんなに僕が間違い電話だっていってもひきさがらない。どうやらこの番号を調べて、彼女が通っている大学内部のどこかだって察しをつけたらしい。なんだか泣きそうな声で訴えられるとこっちも困っちゃうんだけど、もし僕が摩魅さんだったらやっぱり初対面というか通りがかりでこれだけ入れ込まれてしまったらかなり引くし、無責任に「会ってみたら？」とも言えないと思う。

「もう回線切っちゃえば？他の人なら、ここが通じなければ誰かの携帯にかけてくるよ」という案も出るには出たんだけど、なんだかこんなことのために不自由な思いをするのもどうかってことで、しばらくはこの状態が続くことになりそうだ。部室の電話は古いやつで、留守電機能もナンバーディスプレイもないしね。

というわけで、このままじゃ僕のほうが電話恐怖症になっちゃいそうだ。そろそろあきらめてくれないかなあ。



新学期になって、学園祭の準備も本格的になってくると、なんだかんだと学生会室に行くことも増えてくる。あの部屋はクラブハウスの中でもちょっと異質な雰囲気なので、用がなければいきたい場所でもないんだけど。

面白いのは、行くたびに部屋にいる面子はちょっとずつ違ってても、それぞれが占めている場所っていうのはあんまり変わらないってことだ。部屋をもう少し片付ければ、もっとゆったり座ったりできるはずなのに、いつもボロボロの、僕なら勧められてもあんまり座りたくないソファに人がきゅっと座っている。真ん中にいるのは大抵麻魅さんだ。ソファのアームに座っている人もいて、その人はやっぱり見るたびにそこにいる気がする。ソファ以外では、几帳面そうな、多分経理担当の人が、いつもがんばって奥の机のところを死守しているけど、書類が積み上げられていてあんまり顔が見えないくらいだから、そこも決して居心地がいいとは思えない。

そういえば僕も部室では、空いている限り同じ椅子に座っている気がする。たいていの人って、自分の場所をなんとなく決めたくなるものなのかなあ。



ラウンジを通り抜けようとしたら、そこにぼんやりと煙草をふかしている摩魅さんを見つけた。年が変わっても相変わらずのその姿になんとか安心してしまったんだけど、今年は彼女も卒業するのかな、どうなんだろう。

妙な話だけれど、自分は4年生になって就職もして、とどんどん変わっていくし、そうありたいと思っているのに、自分がすごした学校や周囲の人たちにはずっとそのままでいてほしいような気持ちがちょっとだけある。もちろんこれから入ってくる学生のためには、この古くて壊れそうなクラブハウスだって建て直されたほうがいいにきまっているんだけどね。



ボンソワール、今日はクラブの事でも書くね。12月で幹部交代をすることになった我が路上観察部だけど、先日2年生の間で新幹部が決まった。人選については、まあ僕らにとっても予想通りというか、妥当な線だと思ったし、どちらにしても彼らの活動に物言いをするつもりはないので、すんなり次世代にバトンタッチということになったんだけど。

例によってその後飲み会になだれこんで、今日ばかりはということで4年生まで呼び出して、久々の大所帯になった。

単なる学生の部活動ではあるんだけど、やっぱり自分たちの生活の一部を皆それぞれそこにそそいでいたわけで、こうやって集まるとしみじみと感慨深いものがある。1,2年の年の違いでしかないけど、一応先輩後輩という関係でそれなりにつきあいを深めていると、結構お互いに思い入れって言うものもでてくるしね。

面白いのは入ってきたときに一番問題児あつかいされていたやつが、結局次期部長におさまっているということだ。こう言っちゃなんだけど、本当に生意気で可愛げがなかった彼なのに、なぜか僕ら3年生にとっては今一番可愛くてしょうがないっていうのがいつわらざる心境だと思う。彼が素直になったとか、そういうことじゃないんだけどね。

うまく言えないけど、自分にとって大事な人っていうのは、相手「が」どれだけ自分に何かしてくれたか、ということ以上に、相手「に」自分がどれだけ何かを注いだかによって決まってくるような気がする。その関係は常にイーブンではないから、相手が自分をどう思っているかというのはまた別の話だけれどね。



ええと、これは一昨日の……いやもうちょっと前の話だね。なんだか毎日あわただしくて。

4年生の卒業も近いということで、路上観察部のキックアウト飲み会（いわゆる「追い出し」ってやつだ）があったんだけど、その前にちょっと図書館でバイトをすることにした。なにしろ何かと物いりの時期だから、少しでも稼いでおかなきゃ。

そこで、珍しいことに摩魅さんがいるのを見つけた。いや、休み中に彼女が学校にいるのはちっとも珍しくも無いけど、その場所が図書館っていうのがとても稀なことなんだ。なにしろ、図書館は禁煙なんだから。

摩魅さんは本を広げながら、でも読むでもなく窓辺に目をやりながらぼんやりしている風だった。何してるんですか、ってきいてもいいんだけど、僕と摩魅さんはそこまで親しくないっていうか、単なる顔見知り程度の間柄で、多分彼女は僕の名前さえ知らないんじゃないかと思う。でももし声をかけたら、何の屈託もなく話をしてくれるのもまた、間違いないんだけど（恐らく名前を知らないままで。）

そんなことを一瞬考えていたら視線に気づいたのか、摩魅さんがこっちをみたので、思わず僕はぺこりと頭を下げた。それを見た彼女はなんだか面白そうに笑った……。そうすると八重歯がのぞいてチャーミングなんだけど、ちょっと不躰な子供に「めっ」とするような顔でもあったので、僕は思わずその場を退散してしまった。

それにしても、……やっぱり彼女も今年は卒業するのだろうか。なんだか、今更のように思うのは、僕の知っている学校の風景っていうのは彼女も含めてのもので、さらにこれから飲み会をする4年生たちも含めてのもので、そういった人たちがいなくなっちゃうのはなんだか大事なピースのひとつが欠けてしまう様なもので、……つまりなんだかとても感傷的になってしまった僕なのだった。



ボンソワール、なんとなく書くタイミングを逃してしまっていたんだけど、前から読んでいてくれた人の中にはひょっとして気にしてくれている人もいるかもしれないので、今日は「旧・4年生その他」が現在どうしているのか、について書いておこうと思うんだ。

髪型と口調のギャップの激しい佐藤君は、同じ大学の院に進学したよ。考えてみればあの髪形のまま就職活動をしていたというのは無理がある気がするものね。そして同じく院生には、今年2年目の渡辺さんがいる。彼女は今のところ、変わらず図書館のバイトのチーフもつとめているので、また何かとお世話になったりすると思う。

一方、某商社に内定の決まっていた志郎さんは無事に卒業して新社会人だ。そして、僕にとってはその動向が一番謎だった摩魅さんは、大方の予想を裏切って、同じくこの春に卒業した。就職したのか、他所の院にでも進学したのか、今のところ僕は情報を得ていないけれど、学生会室にいてももう彼女がいないのをみると、なんとなく物足りないような気がしないでもないんだよ。

その他、「路観」の4年生もそれぞれの道を歩んでいるんだけど、考えてみたら僕は一番身近な彼らのことをこのブログに書いていなかった。まあ、意外とそんなものかもしれないなあ。



撮りためた写真のデータを整理していたら...僕はよほど気に入った写真でないとプリントしないから、ほとんどの写真はパソコンの中でしか見られないんだけど...、入学したての頃に撮ったずいぶん懐かしいやつなんかが出てきた。

そこに写っている僕はなんだかずいぶん子どもっぽいし、一緒にいる友達もいかにもこの間まで高校生で、って感じだ。このときはまだ大して相手のことをよく知らなかったのに、何をそんなにうれしそうに肩とか組んじゃっているかなあ、と思わず自分に突っ込みを入れたくなってしまう。

そんな中に唐突に摩魅さんを撮った一枚があって、なんだか不意をつかれたような気分になった。正確に言うと学生会室の写真なんだけど、これを撮ったときの僕は部屋を撮りたいと言いながら、実は隅っこにいた彼女をファインダーにおさめたいと思ったんだっけ。だからって断じて彼女に一目ぼれしたとか、そういうわけじゃないんだけどね。

うまく表現できないけど、その頃から彼女っていうのはいつも僕の知らない世界の空気をちょっとだけのぞかせてくれるような人だったんだと思う。この写真のときの摩魅さんの年齢を、多分もう僕は越しちゃったんだけど、その感じは今もやっぱり変わらないな。

なんてことは、ここだけの話だよ。



お疲れさま、ここまで読んでくれてありがとう。

実は僕のブログはなんと8年も続いていて、今回よりぬきをした「学生編」から「社会人編」まで続くんだけど、とりあえず今回は摩魅さんの話を中心にまとめてみたよ。

もし気に入ってくれたら、ブログのほうも（たいへんなボリュームだけど）読みに行ってくれたら嬉しいな。

[イバラノツルヒコの華麗なる生活](#)

[イバラノツルヒコの華麗なる生活 ～社会人編](#)

実はこの長いブログもそろそろおしまいにしようと思っていて、区切りの展示も東京・西荻窪で開催中だよ。

（2012年2月3日～2月15日：9日木曜日は定休日です）

[FINAL TSURUHIKO ～イバラノツルヒコ展 終章～](#)

そうそう、それからこれも宣伝で申し訳ないんだけど...

このブログがもとになって、2008年に描きおろしコミック本も出すことができました。
こちらに興味があったら是非読んでみてね。



それじゃ、またどこかで会えたら嬉しいよ。
このへんで、今日はアデュー！

イバラノツルヒコの歩み

2004.12 ブログ開始。「イバラノツルヒコの華麗なる生活」

初期数ヶ月のアクセスは1日3PV、全部自分とか。

初記事 <http://blog.goo.ne.jp/tsuruhiko/e/578aeac0a0ebd156330ab65c27f72655>

少しずつコメントやトラックバックをいただき、ネット上で交流がはじまり楽しくなる。

2005.11 yahooのオススめにピックアップされ、そこから

人気テキストサイト [Weekly Teinou 蜂 Woman](#) さんに紹介してもらいアクセスが爆発的にアップ。

2006.2 日本ブログ大賞2006にノミネート、イラスト部門で読者投票8位。

ちなみにこのときの読者大賞（総合）は「きっこのブログ」さん。

2006.5 西荻窪「[ニヒル牛2](#)」さんにて「ツルヒコ工房」（手作文房具とか）のグッズを販売開始。

通常の箱売りのほか、お店の企画 “Tシャツ展、初恋展、旅の本展” などにも参加。

2007.4 大学卒業、就職を機にブログを引越し。

イバラノツルヒコの華麗なる生活2～社会人編～

2008.3 ニヒル牛2ギャラリーにてはじめての展示「イバラノツルヒコ展」。

2008.10 展示をみた「サンクチュアリ出版」さんより声をかけていただき、

描きおろしコミック本「イバラノツルヒコの華麗なる日々」発売。

2012年末までの実売部数 11097部。

2009.5 ネットでご依頼を頂き、P E A C H J H O N の姉妹カタログ「G J」にマンガを掲載。

2009.11.11 同じくネットでご依頼を頂き、マガジンハウス「anan」特集記事にイラスト掲載。

2010.3 同じくネットでご依頼を頂き、ゼクシィ富山・福井・石川版の2010年5月号 別冊付録に

マンガを掲載（ツルヒコキャラはできません）

2010.8 P Jの姉妹サイト「G Jオンライン」 にツルヒコの部屋（現在終了しています）

2012.2 「ニヒル牛2」ギャラリーにて二度目の展示

「FINAL TSURUHIKO ～イバラノツルヒコ展 終章～」開催。